

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年3月1日

【タイトル意訳】 ワクチンは、COVID-19死亡率を5分の1から14分の1に減らす効果がある（原題：COVID-19ワクチン未接種者と二価ワクチン接種者における感染率と死亡率の差：米国24地域、12才以上、ワクチン接種後経過時間別、2021年10月3日～2022年12月24日）

【松崎雑感】

COVID-19で死なないためには、COVID-19ワクチン、それも、二価ワクチンを受けることが大事だというMMWR論文です。COVID-19ワクチン接種で死亡リスクは一桁下がります。

【意訳】 ワクチンは、COVID-19死亡率を5分の1から14分の1に減らす効果がある（原題：COVID-19ワクチン未接種者と二価ワクチン接種者における感染率と死亡率の差：米国24地域、12才以上、ワクチン接種後経過時間別、2021年10月3日～2022年12月24日）

Johnson AG, Linde L, Ali AR, et al. COVID-19 Incidence and Mortality Among Unvaccinated and Vaccinated Persons Aged ≥ 12 Years by Receipt of Bivalent Booster Doses and Time Since Vaccination - 24 U.S. Jurisdictions, October 3, 2021-December 24, 2022. *MMWR Morb Mortal Wkly Rep.* 2023;72(6):145-152. Published 2023 Feb 10. doi:10.15585/mmwr.mm7206a3

2022年9月1日にCDCは12歳以上を対象に、過去のワクチン（一価ワクチン）接種効果の低下を補うために、二価ワクチンによるブースター接種を推奨した。対象者はその後生後6か月以上に拡大された。

ワクチン未接種者と接種者およびオリジナル一価ワクチンと二価ワクチンの効果の差を評価するために、それぞれの集団の感染リスクと死亡リスクを比較した。この時期はデルタ株とオミクロン株の流行期だった。

BA4とBA5の流行後期においては、ワクチン未接種者は、二価ワクチン接種者よりも死亡リスクが14.1倍、感染リスクが2.8倍高かった。

またワクチン未接種者は、一価ワクチン接種者よりも死亡リスクが5.4倍、感染リスクが2.5倍高かった。

（つまり、ワクチン未接種者の新型コロナ死亡率は、一価ワクチン接種者の5.4倍、二価ワクチン接種者の14.1倍だった：松崎）

高齢者では、ワクチン未接種者は二価ワクチン接種者よりも死亡率が23.7倍（65～79才層）、10.3倍（80才以上層）高かった。

一価ワクチン接種者は二価ワクチン接種者よりも死亡率が8.3倍（65～79才層）、4.2倍（80才以上層）高かった。

ブースター接種後の経過時間と死亡リスクの関係を見ると、ワクチン未接種者は、一価ワクチン接種後2週間から2か月の人々と比較した死亡リスクが、デルタ株流行期で50.7倍高く、BA4とBA5の流行後期で7.4倍高くなっていた（デルタ株流行期の方が死亡リスクがはるかに高かったということ：松崎）。

BA4とBA5の流行初期では、一価ワクチンのブースター接種から時間が経つほど、ワクチン未接種者との死亡リスクの差は縮小していた（接種後6～8か月で4.6倍、9～11か月で4.5倍、12か月以降で2.5倍）。

一方、BA4とBA5の流行後期では、ワクチン未接種者は、二価ワクチン接種から2週～2か月の人々よりも死亡リスクが15.2倍高かった。

以上より、二価ワクチン接種者は、ワクチン未接種者および一価ワクチン接種者よりも死亡リスクが低下していたことが分かった。

二価ワクチンの効果は高齢者ほど高かった。COVID-19の重症化と死亡を防ぐために、二価ワクチンを受けることが推奨される。

【文章ベースではややこしいストーリーですが、グラフを見ると一目瞭然です】

ワクチン未接種-一価ワクチン接種-二価ワクチン接種で死亡率がどれくらい違うかは**次スライド**をご覧ください。

COVID-19死亡

年齢調整死亡率 (対10万人)

